



町民の皆さんに代わって町の予算を審議する「平成26年度予算等審査特別委員会」が、3月6日から5日間の日程で開催されました。特別委員会では、平成26年度一般会計予算ほか8会計と、予算に関連する議案11件が審議され、3月13日の本会議でいずれも原案のとおり可決されました。

平成26年度予算等審査特別委員会報告 審査所見

平成26年度木古内町一般会計予算及び各特別会計等の予算は、新幹線関連整備事業費約15億円など、第6次木古内町振興計画の初年度となる政策予算を含め、約98億5,100万円という近年にない大型の予算編成となっています。

一般会計については、歳入不足となる約4,000万円は財政調整基金から繰り入れており、将来への負担となる町債が約10億円と歳入総額の約18%を占めています。

町債に対しては、国からの地方交付税による一定程度の支援もあることは理解するが、今後の財政収支計画に支障を来すことのないよう、慎重な財政運営を強く要望します。

以下のとおり、3点について意見を付けました。

1. 食材購入のあり方について

学校給食センターでは、食材となる原材料を主に町内商店の2業者で構成する納入組合から購入しています。

一方、病院事業では、委託料の支出を抑制するとともに食材の安定した供給を図るため、米を除くほとんどが委託業者自社の物流によるものとなっています。地産地消の推進という観点から、地元食材を安価で安定した供給が図られるとともに、町内商業者に対する商業振興に資することが可能な仕組みづくりについて検討願います。

2. ふるさとの森スキー場の整備について

ふるさとの森スキー場施設の老朽化については、以前から議会で指摘をしてきたところであるが、新年度予算においてスキー場リフト改修工事費の予算が計上されています。

経費節減から平日の夜間利用が制限されるなど、利用者数は年々減少傾向となっている。今後、利用者から喜ばれる施設となるよう、リフトの増設を含めたコースの延長や斜面の傾斜・拡大等について検討願います。

3. 教育委員会のタイヤショベル借り上げについて

教育委員会では毎年度、タイヤショベルの借上料が計上されているが、新年度予算においては使用期間も延長となっているが、約2倍の額が予算計上されています。

行政全体を含め、総合的な利用方法を検討する中で、購入または借り上げについて、財政部局と十分な協議を行った上で予算執行されるよう強く要請します。

総額
98億
5,100
万円

近年にない大型予算編成

平成26年度全9会計予算を可決